

活動成果報告書

令和元年度（第23回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ 乳幼児期からの運動発達支援体制の取り組み ～母子保健・福祉等との連携～	
グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 高崎市 こども発達支援センター 代表者：上原 正恵	
勤務先：高崎市役所 所 属：福祉部 こども発達支援センター 所在地：〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1 TEL：027-321-1351 FAX：027-326-9180	

◇活動方針

高崎市こども発達支援センターは、発達に特性のある子どもや課題を抱えている子どもとその保護者や関係機関の方を総合的にサポートするとともに、0歳から中学卒業まで一貫した支援を行うことを目的に、平成23年度に高崎市役所庁舎内に開設された。福祉部に属している。

乳幼児健診等母子保健は保健医療部健康課が行っており、日頃より、両課で連携をとることが多い。

保健師は、親子支援はもとより、関係機関や民間団体と連携を図り、発達に特性のある子どもの早期発見・早期支援に努め、子どもたちがのびのびとその子らしく健やかに成長できるよう、地域支援体制の構築と子ども達を取り巻く環境づくりに努めている。

◇活動内容とその成果

1 活動内容

当センターでは、大きく分けて6つの事業を行っているが、その中の1つである相談支援事業の中に、主に保健師が関わっている事業として、乳幼児発達相談「にこにこるーむ」がある。

この事業は、母子保健を担当している健康課との共同事業として実施している。健康課で実施している乳幼児健診や相談で把握した運動発達の遅れや偏りのある乳幼児に対し、保護者が日常生活の中で無理なくできる遊びやかかわりの工夫を提供し、発達を促す支援をすることを目的としている。

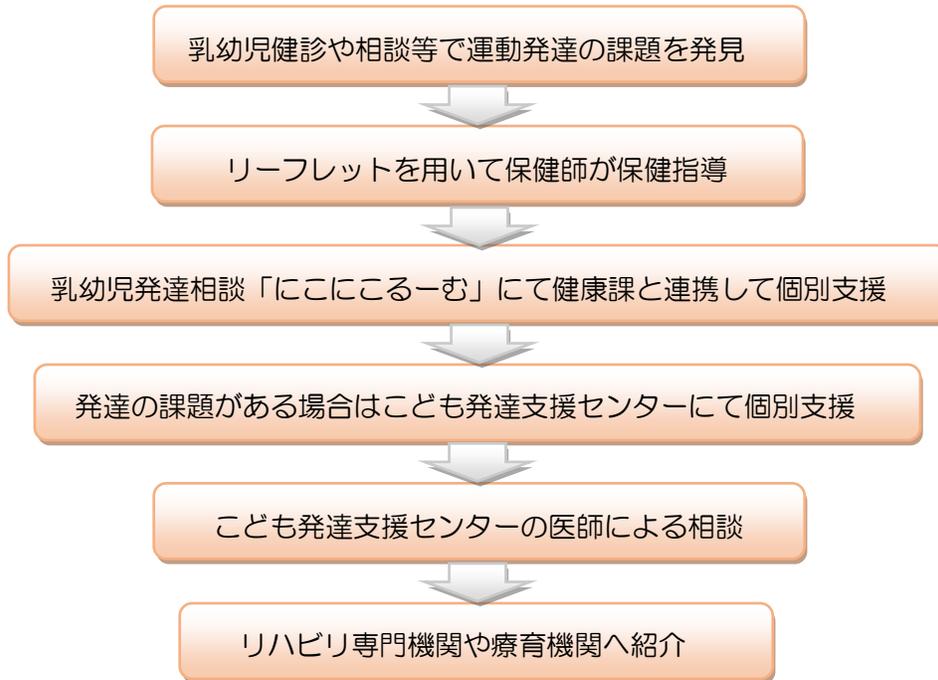
スタッフは当センターの保健師、看護師と作業療法士がチームを組み、健康課保健師と連携を図り実施している。さらに、当センターの作業療法士と健康課保健師を中心に、運動発達の課題に応じた保護者向けリーフレットも共同開発し、随時更新しながら保健指導等で活用している。

乳幼児発達相談「にこにこるーむ」は市内6か所の健康課保健センターを会場に開催しているが、身

活動成果報告書

近な地域の保健センターで実施することで、保護者の育児不安やストレスに保健師が寄り添い、保護者との信頼関係が築きやすいといったメリットがある。

運動発達の遅れや偏りは、まだ問題が小さいうちに保護者が気づき、早期支援に繋がるケースが多い。運動発達の相談をきっかけに、言語発達や行動面の課題など、さまざまな発達の相談につながるケースも少なくない。その際の支援は、おおむね下記の流れとなる。



当センターへの来所相談動機を分析すると、平成30年度は、健康課保健センターからの紹介が最も多く全体の27%であり、続いて保育園等からの紹介20%、ホームページを見て等の自主的な申し込み18%、学校からの紹介14%となっている。

運動発達の遅れや偏りをきっかけに早期に発達支援を開始することは、子どもの発達への理解を促し、子どもの育つ環境を整えることにもつながり、二次障害の防止にも有益である。

2 活動成果

乳幼児発達相談「にこにこるーむ」の過去2年間の実績は下記の通りである。

年度	回数	延べ人数
平成29年度	83回	499人
平成30年度	84回	593人

平成30年度には、保健師を始めとした乳幼児健診に携わるスタッフのスキルアップとリーフレットの活用を目的に、乳幼児の運動発達の知識と支援技術向上のための研修会を、当センターと健康課で2回開催した。また、研修会で実施した乳幼児発達相談「にこにこるーむ」に関するアンケート調査を基に、今後の事業の運営方法等についてスタッフ間で意見交換を行った。

